

成果事例集の制作について

広報TFでの検討結果を踏まえ、以下のとおりご報告いたします。

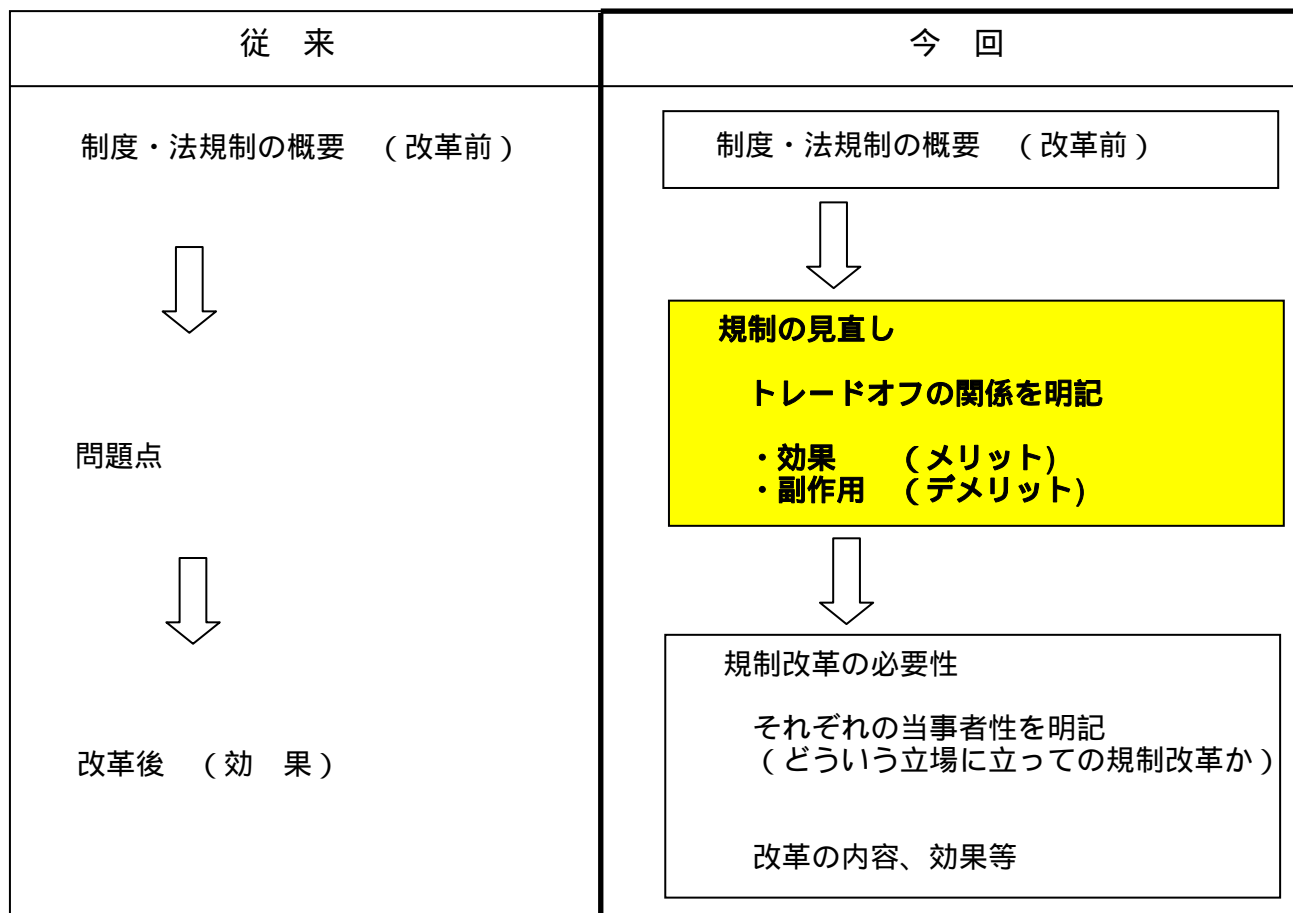
<制作の方向性>

*大日程

内容	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(1)テーマ選定	→	中間まとめ & あじさい対応				年末答申 & もみじ対応	
(2)各TFによる作業			案 : パワーポイント	→			
			案 : 冊子タイプ	→			
		案 : パンフレット					

内容や完成タイミング等から、
案がおすすめ

< > 完成予定時期		案 < 8月末 >	案 < 8月末 >	案 < 12月末 ~ >
1. 媒体		パワーポイント (A4ヨコ)	冊子タイプ (A4タテ・内製)	パンフレット (A4タテ・外注)
2. 長所 & 短所	長所	作業しやすい (都度更新可)	ストーリー調での編集 ↓ トレードオフの関係など 改革の必要性を明記しやすい	ポンチ絵等による ビジュアルでの訴求が可 (カラー対応)
	短所	背景にある考え方など 伝え切れない	ビジュアルでの訴求に難有り	制作期間長く、コスト大
3. 制作期間		約2.0ヶ月 (テーマ選定: 0.5ヶ月 各TF作業: 1ヶ月 各省折衝: 0.5ヶ月)	約2.0ヶ月 (テーマ選定: 0.5ヶ月 各TF作業: 1.0ヶ月 各省折衝: 0.5ヶ月)	約5.0ヶ月 (テーマ選定: 0.5ヶ月 各TF作業: 2.0ヶ月 入札公募・選定: 1.5ヶ月 各省折衝: 0.5ヶ月 印刷: 0.5ヶ月)
4. 外注コスト		0円	0円	150万円 (デザイン企画: 100万円 印刷代: 50万円)
5. 広報施策(案)		論説懇(9月)、経済団体等への展開		



平成 21 年 6 月 5 日

成果事例集の構成（案）

まえがき：規制改革会議の概要
構成員と位置付け

はじめに：規制改革とは何か
なぜ規制改革が必要なのか

事例 1：認定こども園制度の開始

事例 2：株式会社による農業経営参入

事例 3：労働契約法制の整備

<コラム 1>：規制実施・改廃の前の評価は義務（導入後の評価も必要）

事例 4：就学校変更について

事例 5：世界に開かれた日本の空の実現（オープンスカイ）

事例 6：主要港湾の 24 時間フルオープン化の推進

<コラム 2>：見える被害者と見えない被害者（石炭から石油への転換）

事例 7：駐車違反对応業務の民間委託

事例 8：携帯電話のナンバーポータビリティ制度

事例 9：銀行等による保険販売の全面解禁

事例 10：医療分野の広告規制の緩和

事例 11：車検制度の期間延長

<コラム 3>：規制改革の視点は消費者主権

おわりに

規制改革はなぜ必要なのでしょうか (仮題)

1, はじめに

規制改革とはどのような取り組みなのでしょうか。

また、それはなぜ必要なのでしょうか。

ここでは規制改革とはどのような取り組みなのか、また規制改革がなぜ必要なのかについて、例を示しながら私たちの考え方を述べていきたいと思ひます。

2, 規制はなぜ必要?

例として自動車の速度制限を考えてみましょう。

街の中では法定最高速度が時速 40 キロメートルとされている道路が多く存在します。

また自動車専用道路などでは、最高速度が時速 100 キロメートルとされている場合もあります。

なぜ自動車の速度にはこのような規制があるのでしょうか。

これはドライバーが好き勝手なスピードで運転すると事故が起こってしまい、自分がケガをするだけでなく、歩行者や他の自動車などにも被害を与えてしまうからです。

皆さんは、なぜ家の周りの道路では速度制限が 40 キロメートルになっているのかを考えたことがありますか。なぜ 30 キロメートルや 50 キロメートルではないのでしょうか。どのような規制を行うか、またどの程度の規制を行うかを考える際に必要なのは**トレードオフの関係を**見抜くことです。

トレードオフとは、「あちらを立てればこちらが立たず」といったように、望ましいと思われる二つのことを両立させることが難しい状態を意味しています。

速度を抑えると、交通事故は減るでしょう。しかしそのために日本中の道路の速度制限を仮に 20 キロメートルとしたら、確かに交通事故は減りますが、人々が移動するのが難しくなりますし、物流も滞ってしまいます。新鮮な魚や野菜が手に入りにくくなることもあるでしょう。

この例からも分かるように、速度制限は低ければ良いわけでも高ければ良いわけでもありません。**バランスを考えて規制が行われる必要**があるのです。

3, 規制の見直し

最初に速度制限を設けた際には、おそらくこのようなトレードオフの関係を考慮に入れて上限が決められたのでしょう。

しかし、新たに規制をする際、多くの場合は、事前にその直接的な効果や波及効果を調査し、完全に把握することはできません。また仮にできたとしてもとても費用がかかります。こういつたとき、かなりの確率で上手くいくという予測が立てば、規制は導入されることになりま

しかし予想とは異なる効果が現れたり、想像もしていなかったような副作用が見つかったりした場合には、規制の程度を変更することや撤廃することが必要になるかもしれません。

また、このような時速 40 キロメートルまでという速度制限は、もしかしたら定められた当初は適切なものだったとしても、時代の変化とともに修正が必要になることもあります。

我が国では高齢化が進んでいるので速度制限をより厳しいものにする必要があるという考え方もあるでしょうし、10 年前と比べたら自動車や道路の品質や安全性が格段に向上したことを反映させて、速度制限を緩くするべきだとの意見もあるでしょう。このような時代や技術の変化に対応するように規制は定期的に見直される必要があるのです。

さらに言えば、事故を起こさないという目的のために速度規制という手段が望ましいか否かも検討する必要がありますね。すべての道にガードレールを設置することや、交通事故を起こしたときの罰則を厳しくするなど他の施策との比較検討も必要でしょう。

この面からも現在の規制が適切であるか確認して、もっと良い方法がないかを時折検証する必要があります。

4 , 規制改革の必要性

多くの規制は、おそらくもっともな理由があって導入されたものです。

以上の内容から、次のように整理されます。

- (1) **技術の進歩**などによって、想定している目的を達成するための手段として他にもっと良いものが現れたら、この場合にも**規制の手法を変更することが必要**
- (2) **規制の程度が適切であったかどうか**や見過ごされていた**副作用が存在しないか**について**事後的に評価**した上で必要なら規制のあり方を見直すことが必要
- (3) **時間が経ってからは**、その規制が現在でも本当に必要なものか、**規制の程度はこのままで良いのか**を再検討することも必要

規制改革が必要になるのは、このような理由からなのです。

規制改革会議では、規制に伴うメリットとデメリットとの関係(費用と効果)を考えることで、我が国全体のために望ましい規制とはどのようなものなのかを考えています。

規制改革とは規制緩和や規制撤廃だけを意味するものではありません。望ましくない規制をより効果的な規制で置き換えることも重要な規制改革なのです。

(参考資料)

エントリーテーマ(案)

TF		テーマ候補		
^ v 集中 テーマ	A 成長 分野	医療	医療分野の広告規制の緩和	ライフサイエンス分野の規制改革
		介護	介護報酬改定における加算要件、基準の見直し	
		保育	認定こども園制度の開始(幼保一元化に向けた取組)	家庭的保育(保育ママ)の拡充に向けた取組
		農林水産	株式会社による農業参入の促進	
		住宅・土地	定期借家制度の導入・改善	
		航空・空港	世界に開かれた日本の空の実現(オプンスカイ)	
	B 基盤 整備	雇用・労働	労働契約法制の整備	理美容資格の中卒者の取得要件の見直し
		教育	就学校変更について	
	^ v 一般 テーマ (*)	金融	銀行等による保険販売の全面解禁	
独禁政策・生活基盤				
地域活性化		酒類の製造販売の自由度の向上	補助対象施設の転用緩和	
環境		太陽光パネルの導入支援策の検討		
海外人材				
貿易		主要港湾の24時間フルオープン化の推進		
運輸		車検制度の期間延長		
IT・通信		携帯電話のナンバーポータビリティ制度		
エネルギー		卸電力取引所の開設		
基本ルール				
法務・資格		最低資本金規制の撤廃		
官業改革		駐車違反対応等業務の民間委託		